

## 熊本県病院薬剤師会感染制御研究会

### 平成 28 年度 第 4 回研修会 「症例検討会、スモールグループディスカッション」 症例概要

#### ●14：00～14：40 「多発骨転移のある腎臓がん患者の発熱症例」

国立病院機構 熊本再春荘病院 薬剤部 山下 克也 先生

感染症名：尿路感染症、目的：免疫抑制状態にある患者の尿路感染症のマネジメントの習得

#### 症例の概要

尿路に基礎疾患を持つ発熱症例では、尿路感染を十分に考慮する必要がある。さらには腎臓がん、多発骨転移などを保有している場合、化学療法や運動、栄養摂取状態により、日和見感染症を考慮した抗菌薬の選択が必要になる。本症例では、尿路感染症を考慮した場合にどのような思考プロセスでどのような原因微生物を考慮し、培養検査等をどのように解釈して抗菌薬を選択したかを議論する。

#### ●14：40～15：20 「当院で経験したフルニエ壊疽の 1 例」

熊本セントラル病院薬剤科 平田 康二郎 先生

感染症名：フルニエ壊疽、目的：フルニエ壊疽の治療マネジメントの習得

#### 症例の概要

一般病院に勤める薬剤師としては、フルニエ壊疽を経験することはまれである。本検討では、基本的な病態情報をまとめ、本症例で疫学的に想定された原因菌からどのように抗菌薬を選択したかを概説し、情報の共有を図りたい。

#### ●15：20～16：00 「治療域内血中濃度のアミカシンによって神経筋遮断作用の発現が疑われた症例」

国立病院機構 熊本医療センター薬剤部 山形 真一 先生

感染症名：敗血症、目的：アミノグリコシド系薬の副作用マネジメントの習得

#### 症例の概要

アミカシンは古くからあるアミノグリコシド系抗菌薬であり、副作用（主に腎機能障害）を防ぐための TDM が推奨されている薬剤である。一方で、アミノグリコシド系薬一般の副作用として神経筋遮断作用が報告されているが、血中濃度との相関に乏しく、その病態は必ずしも明らかではない。本症例を共有することで、precision medicine に貢献できればと考える。

#### ●16：10～16：50 「繰り返す誤嚥性肺炎の 1 例」

医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院 薬剤科 鈴木田 恵一 先生

感染症名：誤嚥性肺炎、目的：繰り返す誤嚥性肺炎を見た際に行うべきアプローチ方法の習得

#### 症例の概要

特に高齢者においては、できるだけ消化管経由の栄養摂取が必要とされる中で、嚥下機能が低下している患者が多いことから、誤嚥性肺炎のマネジメントには難渋する。本症例では、施設において具体的に取り組んでいる誤嚥性肺炎のマネジメントからの 1 例を紹介する。

#### ●16：50～17：30 「尿路感染症に対する de-escalation の成功例」

公立玉名中央病院 薬局 坂本 一貴 先生

感染症名：尿路感染症、目的：de-escalation を進めるための具体的な方法の習得

#### 症例の概要

尿路感染症は敗血症の第一原因であり、尿培養と血液培養の一致を持って診断されることも少なくない。したがって、他の感染症と比較して原因菌の特定が行いやすいなどの利点があることから、de-escalation を積極的に行っていくことが可能と考えられる。すなわち、薬剤師が de-escalation の観点から感染症診療に貢献できる一つの感染症であると考えられる。本症例をもとに、具体的な起因菌の判断から医師とのコミュニケーションを通じたその手法を再検討していきたい。